

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【対象者別】社会人・経営者【概要】

令和3年12月8日（水）

19時00分～20時00分

女性総合センター

1 開会の挨拶

（市長）

こんばんは。市長の清水でございます。大変皆さんお忙しい中、一日の締めくくりの時間を割いていただきまして御礼申し上げます。私としましては、日頃より市内で事業をされている皆さん方のお力添えなしでは、本市の経営は立ち行かないと感じておりまして、そういった皆さんを前にして大変緊張しております。

市民の皆さんが安全に、安心して、まちづくり、あるいは日常生活を送っていかれるかということから考えていきますと、しっかりとした横のながれですとか、縦のながれですとか、これら縦横の軸をしっかりと動かしていくことが必要であると考えています。

今日もある金融機関の方とお目にかかりましたが、その方々からは、できれば中小企業を中心として金融の活動をしてまいりたいというお話がありました。立川において市民や事業者から信用、信頼される活動として、金融機関ができることがたくさんあるのではないかと、というふうなことをおっしゃられていました。

私も実は、大学を出て4年ほど多摩信用金庫にお世話になっておりました、国立支店でございます。その中でいろいろな勉強をさせていただきました。家の事情で、父親がちょっと具合が悪かったこともありまして、4年ちょっとしかお世話にはならなかったのですが、その間何度も、支店の職員は本店へ行って勉強するというので、毎年、本店にも出入りさせていただきました。また、当時は野球部があって、私も野球が好きなので、大勢の金庫の野球部の職員と一緒に遊んだりプレイをしたりした思い出があります。親しい方々も大勢できたんですけども、その方々から、市長としても、市の相手は中小企業でしょうね、こんなお話を何度か聞いておりました。中小企業が頑張っているから立川のまちは、立川はやっていけるんだと。まさに、今になってみると、そんなお話を射していた言葉であったなと思っております。

私の目から見ても、多摩ナンバーワンのまちは立川だと自負しております。特別大きな会社が立川にはあるわけではありません。まさに中小企業のまちですね。それが、大変大きな力となっています。三多摩のみならず、私の知り合いで神奈川県で市長会の会長をやっている友達がいるんですけども、3カ月か4カ月に一度は奥さんと立川へ買い物に行くんだと冗談ながら言っておりました。立川のまちには安くていいものがたくさんあるんだと。だから立川へ行くんだよと。そのぐらい、立川の商売、立川での経済活動というのは、信用されてきているなど、私は肌で感じています。

そういう中でぜひ皆さん方にも、これからはしっかりと、事あるごとに勉強していただいて、そして、商業活動をやっていくと同時に、市民に喜ばれる、安全を中心とした、お手伝いを一般市民の方にしてさし上げたら、ますます立川は大きな信頼と安心をいただけるんじゃないかなと思っております。

ちょっと長目にお話を申し上げましたけれども、まだまだ私ども行政には足りないことがあるだろうなとは思っています。そんな中でしっかりと皆さんのお声を聞きながら、信頼する職員共々に前に進んでまいりたいと考えているところでございます。どうぞ本日は、何でもかんでも聞いてくださいとは言えませんが、できる限りのお話をさせていただきまして、今後の活動に役に立ていただければありがたいなと思っているところでございます。どうぞよろしくお願い致します。

ありがとうございました。

2 意見交換

(参加者)

南口で事業を行っておりまして、南口の商店街の理事長も務めさせていただいております。

本当にコロナで、商店街の会員等、大変厳しいような状況、いろいろと立川市のほうから御支援いただき、誠にありがとうございます。困ったというようなときに、コロナのアルコールスプレーだとか、またはアクリル板の御支援ですとか、東京都、国からもそうなんですけども、立川市からやはりしっかりいただけたということで、本当に皆さん、感謝をしておるところでございます。

コロナの感染者数が少し下がってきたもので、これから年末年始にかけてというところで、今度はオミクロン株が出てきて、やはり皆さん、本当に3,000人とか毎日出ていたような時期を経験しており、また、お酒の自粛ですとか営業時間の自粛なども経験した関係上、なかなかお店にお客様が戻り切っていないというようなお話を多くいただいております。当然、キャッシュレスを使った各種事業、本当にありがとうございます。お店によっては、本当に多くのお客様が使っているというお話もあるかと思いきや、「いや、うちはなかなかないんだよ」という話もあるということが、現在の状況なのかなと思っております。

ぜひ、これで終わったというわけではなく、実は皆さん、先ほど、信金さんのお話もされておりましたが、融資等の返済が始まって、なおかつその返済の、こんなに2年近く、3年目に入るような状況の中、返済の期限を延長だとかいろいろと、借り換えだとかいろいろな形でやってはいるんですけども、やはり売上げが上がらないというようなことで、大変、「いや、もう1回来たらもうちょっとうちの会社、だめになるんじゃないか」というようなことを言ってらっしゃる方もお見かけするもので、ぜひ今後も、商業、商店さんの御支援等、売るほうの御支援ですね。何か商業振興という部分でぜひ、応援をいただきたいというところをお願いしたいという。

あと、もう1点ございまして、まちの回遊性ということも大事な事かなと思っております。実は、バリアフリーというんでしょうか、歩道のバリアフリー化というのがこれから高齢化を迎える日本の中で、商店街の中を含め、例えば医療機関に行くにしろ、多くの方が車椅子だとか、また、ベビーカー等をお使いの方も、やはり歩道がちょっとガタガタしているとか、そういうことを気にされているような方もいらっしゃいますので、その辺もぜひ事業としてお進めいただければありがたいなと思います。併せて、高齢者も増えていきますので、また、街中からバス停にもあったベンチとかそういうものが随分なくなっていますので、もしできましたらば、ある程度の距離行ったところで、ちょっとした腰かけ

るような部分がもしあつたりすると、足の不自由な高齢者の方はもしかしたらお座りいただけるのかなと思ひまして、ちょっと私も腰痛持ちなもので、ちょっと腰が痛い、座りたいなと思つてもなかなか座るようなところがないもので、もしそういうところが市内の中に、駅前中心では当然ないと思ひます。駅からちょっと離れたところ、500メートルなのか1キロなのかわかりませんが、そういう中で、もしそういうようなものが作っていただくことができるのであれば、お願いしたいなと思つております。

以上、2点でございます。よろしくお願ひ致します。

(産業文化スポーツ部長)

御意見ありがとうございます。私たちも、コロナ禍の経験も当然ない状況下でも、一番皆様方に何をお力になれるのかというのを、手を変え、品を変え、アイデアもいただきながら何とか今までやってこれたのかなというところはあります。でも、それもこうやって直接御意見をいただく中で出てきたアイデアだったり、そこからの生まれてきた事業であつたりしてきましたので、これからは忌憚ない御意見をいただき続けられると大変うれしいなと思つております。売上げアップにつながるような仕掛けということでは、今、キャッシュレス決済のキャンペーン、ちょうど今、皆様のお手元にも、今月PayPay20%というのを置かせていただいておりますけれども、導入店は、かなりもう高止まりのような状況にあります。じゃあ、ここから先どうするのかというところでは、やっぱりさらなるしかけであつたり、何かしくみというのも考えていかなければいけないと思つておりますので、また引き続き、ぜひアイデアをいただければとも思つております。

特に、今御意見をいただいたバリアフリーなどの点についても、私たちもよくそういう御意見をいただくことがあるので、ぜひまちづくりの部局とも共有していけたらと思つております。

(総合政策部長)

私のほうから、2点目のほうでございます。駅前にはなつてしまいますけれども、デッキがこれだけ発展をしている中で、非常にベビーカーで移動される方、また障害をお持ちで車椅子の方の姿を、ほかの市の駅前よりも立川のほうが多いのかなと感じております。それだけ移動についてはかなり配慮はされているからでしょうけれど、ただやはり回遊性ということでもう少し広いところを見た中では、段差であるとか、道が損傷しているということが課題になるんでしょう。今、産業文化スポーツ部長からも申し上げたとおり、まちづくり、それとやはり福祉の視点、それを融合した中で、そういったことに配慮しながら整備を行っていきたいと思ひます。御意見ありがとうございます。

(参加者)

よろしくお願ひ致します。

(参加者)

もともと私、不動産の賃貸業なのですが、8年前に商店街の仲間と一緒に、このまちを元気にするための会社を作ろうということで、「まちづくり立川」という会社をつくらせていただきました。それは南口の事業者が中心ですので、非常に、立川市役所が北に移るとかかっていうことで、地域に対する不安、危機感があつたので、自分たち、このまちで商いをする人たち、もしくは資産を持つ人たちこそ、地域のために活動しないと、まちが駄目になっちゃうよという想いで集まった仲間とつくった会社になります。

そういう中で、この少子高齢化の中で、人口が減る中なんですけれども、立川市は逆に増

える、まだまだ増えていく傾向にあるということは本当にすばらしいなと思っていて、それは行政さんの、子育てしやすいまちとか、子育ての支援策とかがすばらしいのかなという思いと、もう一つは、民間が結構、まちのために活動する、そういった活動が非常にたくさん行われているのかなということを感じております。

そういう面では、立川市って前々回ぐらいに市長のこういった会でお聞きした話で、立川市は国の施設とか宗教法人さんがあるので固定資産税のあたりは低いんだと。ただ、地元の事業者さんが頑張っているから、その所得税の収入があるんだよというお話をされていたので、今、前の方も言われましたけど、事業者に対する産業予算というのが、ただの予算でなくてある意味、投資だと。将来的には税収で返ってくるというような形で、ぜひ、しっかりとしたコロナ明けの振興対策を御検討いただきたいというのが、お願いであります。

それと、もう1点、当社は創業支援ということをやっております、それは少子高齢化の時代で都市間格差が激しくなると、若くて創業意欲のある人をしっかりと抱えたまちが勝つなという思いで、シェアオフィスを展開したり、まさしく当社は多摩信さんにも出資いただいているのですが、多摩信さんと一緒に若い創業者の方にセミナーを展開したり、そんなことを支援しておりますが、そこで、グリーンスプリングスの中に東京都のスタートアップハブ東京という、まさしく創業の支援の組織が来られて、そちらの方から連携を打診していただいています。彼らは、多くのそういう創業支援の方、セミナーをするとお見えになるそうですが、じゃあ、地域にどうつなげるかという手足がないというお話をされていまして、我々としては、商店街の空き店舗と一緒に回るツアーであるとか、まち歩きであるとか、また、商店街に対するいろいろな施策をしていただいています。そういうことを紹介して、地域の商店街の中にそういう創業者をつなげていくという事業を展開したいなと思っはいるのですが、なかなかそういう創業の支援というのは稼げるものではないものですから、民間でなかなかやりづらい部分もあって、スタートアップハブ東京さんで東京都の予算を段取りしていただけるのか、さて、どうしようかという部分がありますので、何か行政として創業支援の施策の中で、国や都の創業補助金とかじゃなく、市独自の何かお考えがあればお聞かせいただきたいというのがもう1点目になります。

あと、スポーツ振興の件とか、お時間あれば後ほどまたお聞かせいただければ。

以上です。

(市長)

まずは対コロナ対策をということでございますが、結構厳しいということはわかっています。特に、食べるのが一番課題になっていまして、これをどうしたらいいかというのはなかなか、きちんとした答えを出すのは難しいですね。話は若干それですが、今日も不動産関係の方が見えられまして、何か大きな事業を進めるときに、大勢の人からの賛同をもらいたい。できれば全員の賛同をもらいたいというお話をされました。少々大きな面積になりますけれども、時間はかかってもやむを得ないから、新しい区画整理事業のようなものやっしていかなければ、夢は実現できませんねというふうに私は話をするんですけども。

先ほどバス停の話もありましたけれども、バス停のところに座るものを置くのでしたら、面積、1坪は要りませんね、半坪ぐらいあれば何とかできる。そうしたら、そのあたりに、ちょうどバス停あたりで適当なところがあれば、半坪ぐらい譲ってくれるところを探

すという手もあるんじゃないかなというふうに、前から思っているんですね。ただ、そうすると自分の家の庭の形状が悪くなってしまうとか問題もあるので、難しいところもあるんですけど、ひとつそういうのは、まちづくりという枠の中ではやってみてはどうかかなと思っております。

もう一つは、創業支援の話がありましたね。創業支援は、それぞれ誰がどうするからということではなくて、そういう創業場所を見つけるということも一つの大きな取組だと思えますね。

(産業観光課長)

先ほどの創業支援の中で、創業支援と地域の活性化、商店街の空き店舗活用だとかがつながるようなことができれば、また、そういう創業意欲のある方に立川のまちというのがどういうまちかというのを知ってもらう機会とか、そういうガイドみたいなものを何かできればというお話がありまして、市としては今、御存じだと思うんですけど、空き店舗を有効に活用していただきつつ商店街を活性化するというので、商店街チャレンジャー募集という事業をやっています。これまでは、優秀なところをコンペ方式で選ぶみたいな形をとっていたのですが、残念ながらこういうコロナの厳しい状況になったことを受けて、むしろより幅広く、そういう意向を持ってこの厳しい環境の中でも出店いただいた創業者の方なり、出店者の方を支援しようということで、応募された方をなるべく対象にできるような形、ちょっと間口を広げる取組みはもうしています。

立川は先ほど来、市長もおっしゃっていますが、これだけ狭いエリアにいろいろな国の支援機関、東京都の支援機関、また金融機関もそうですし、今日お見えになっている事業者を相手にした保険業の皆様だとか、本当に多種多様な事業者が集積しているまちというのも珍しいかなと思っております。ビジネスを展開していく上でも、こういう専門家もいるよとか、こういうサービスをやっている方もいるよとか、それぞれがそれぞれの顧客になり、相互に支えている、そういったのも立川のまちの強みであるなという認識ですし、長年にわたってまちを見てきた皆さんの視点で、創業意欲を持ってらっしゃる方に、そういうまちの魅力を紹介していただくような場面だとか、それはまたここで新たな支援機関として入ってきた東京創業ステーション、スタートアップハブ東京みたいな、ああいうところともうまく連携して、何らか仕掛けができればより一層、地域の、空き店舗に限らず空きオフィスも含めて、立川で商売していく、立川で事業を立ち上げるというのは、どれぐらい可能性が広がるのかとか、そういったものを感じていただくきっかけになろうかなという気がするので、どういう形であれば具体につなげられるのか。またちょっとアイデアをいただきながら、我々も検討させていただければと考えております。

(産業文化スポーツ部長)

キーワードとして、「産業に対する予算は、未来の立川に対する投資だ」といういいフレーズをいただいたので、今度から予算のヒアリングでそれを使わせていただきます。やっぱりまち中の方から言っていただいたというのは、所管課としては本当に心強く背中を押していただいたというふうに受け止めております。ありがとうございます。

(参加者)

すいません。立川に住んでおりまして、立川錦町に支店があります保険会社に勤めております。よろしく申し上げます。

先ほど市長から、立川は中小企業が支えているとおっしゃっていただいておりますけど

も、私どもも、この多摩地域の中小企業の皆様の御支援を目的に努めておりまして、やはり、いろいろな支援の中で雇用のところが、優秀な人材が入ってきてほしいというようなことがあると思うんですけども、多摩地域にはたくさんの大学が所在していると思うのですが、地域の思いとしては、その優秀な人材がぜひ地域で勤務してほしいという思いがあるかと思っております。弊社としても、地方創生の取組みの中で、産学官連携、大学との取組みとか共同研究とか、そういうところを進めたいという思いがございます。

立川市様では、そういう取組みの思いですとか、今後こうしていきたいというようなことをお考えであれば、教えていただきたいと思えます。お願いします。

(総合政策部長)

御意見ありがとうございます。私どもも思いは一緒です。多摩にこれだけ大学がございまして、今、都心回帰なんていうことも言われておりますけれど、これだけの大学を抱えている中で、そこで学んだ学生、多摩の地域で仕事を見つけていただいて、そこで住んでいただくということは、どこの多摩地域の市にとっても有益なことであると思えます。

一つ、立川市だけでなく、多摩地域のほかの市も加盟していますネットワーク多摩という組織がありまして、そういった事業で学生さんを応援する。それと、大学と地域との連携ということを進めているということが一つございます。

また、本市でいうと、これからになりますけれど、多摩にあります大学と包括連携協定など、大学と協定を結んだ中で様々若い方の知恵をこちらのほうにいただく。また、市としては、職場体験を市のほうでしていただくということで、お互いのそれぞれできることをやっていく中で、先ほど申し上げた、地元へ就職していただきたいという、そんな取組みにつなげてまいりたいと考えております。

(参加者)

よろしく願い致します。錦町で事業を営んでおります。

まず、今日お伺いしてこちらの資料を初めて拝見しました。ものすごくいいなって、これ、率直な感想でございます。先ほど来、就業支援とか、スタートアップとかっていうところでいくと、立川ってこんなまちなんだっていうプロモーションが非常に大事かなと思っております、わかりやすくここにコンセプトが中に書いてありまして、これ、非常に共感を致しました。これなら配れるなという思いもでございます。

というのが、自分は今、あきる野市に住んでおりまして、実は15年前に立川で家を買おうと思っていたんですね。で、いろいろかみさんの都合で、かみさんの実家から歩いて3分のところに家を買わされてしまったのですが、冒頭で市長から、立川はいろいろある、全てある、人が集まってくると。感じたのが、うちの娘と息子が今、高校生なんです。昔は、出かけるというとおしゃれして都心に向かっておりました。私も、で、うちの娘、息子はどこに行くのかと思ったら、立川か所沢。あ、所沢にも向かうんだと。私、生まれが所沢なので、非常にうれしかったのですが、立川っていう都市の名前が出てきて、やっぱり行くとしてあるという話を以前聞いたことがあって、先ほどの市長の話とちょっとリンクをして、そうだよなというのを感じた次第でございます。

一つお聞きしたいのが、私どもも非常に悩んでおりまして、やはり今進んでいるDXとかデジタル化の部分、よく行政のデジタル化というお話が出ているかなと思えます。先ほどありました、私ども、安全・安心をお届けするために損害保険という商品を通じてお役に立とうという事業をしておりまして、全てが紙なんです。もう1世代、2世代遅れて

いる。もう全て、物が無いので、紙も机の上は紙がこんな山積みになっていて、それを一生懸命ハンコを押しながら処理をしていると。それをつい最近までやっておりました。これをいかにデジタル化、効率化をしていこうかということは今、会社で取組みをしております。それぞれいろいろな課題があるかと思うんですけど、今、立川市の向かおうとしている方向性とか、住民サービスの構造というところでお考えになられているところ、もしお聞きできればと思いますのでよろしくお願い致します。

(市長)

そんなに難しくはありません。安全で安心、みんなと一緒に食べていける、これが私の願いですし、選挙のときにもこの言葉で理解をいただきました。

(総合政策部長)

私から幾つか。まず、御覧のメッセージブック、おほめいただきましてありがとうございます。「立川くらいが、一番いい」。いろいろな評価がありますが、今、お話しいただいたとおり、ボディコピーのところに「何でもある、がそこにある。全部が一番いい、立川らしさ」。そういうまちのコンセプト、今、なっているでしょうし、ほかの市にお住いの方に立川市を勧めたいというときに、「立川くらいが、一番いい」ということでこのブランドメッセージ、ロゴマーク、それとボディコピーを使った中で、これは行政だけではなくてまちの皆さんに使っていただきたいということで、こういった冊子を作りました。それぞれストーリーということで、これが生まれた背景とか経過であるとか、これは皆さんの中でも使っていただけるものですので、その使い方であるとか、既にもうお使いいただいているところ、市内の事業者さん等で構成されております。ぜひ、今、20から30ぐらいの企業、団体さんには使っていただいて、もっと増やしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

それと、市長からの思いを本当に市民の方に、安心して暮らしていけるとするのはそのとおりでございます。DXの、これはもう一番の視点としては、大きいのは市民の方に、いかにしてそういった恩恵があるかということだと思います。どうしても私どもも、行政内部のDXのほうに目が行きがちですけども、市民の方が便利になるというところ、そういった視点で臨んでいきたいなとは思っています。ただ、まだまだ本市もDXの部分では進んでいるほうではありません。ペーパーレスが進んでいるわけではないですし、アナログ的なところが多いところです。この辺も、また皆さんのお知恵を拝借した中で、進んでいる行政を目指していきたいと考えてございます。御意見ありがとうございました。

(市長)

ちょっと裏話ですけども、聞いてください。「立川くらいが、一番いい」、このメッセージ。私は、立川はもう前に進むのやめてしまったのかと。本当、私は正直言って、そう感じていたんです。けれども、時間をかけてこういう形で作ると、あ、そうかと。今まで100%できたことはなかったと。だから、易しいと思ったことでも一生懸命取り組まないと、とても100%には行きつかないと。目が覚めたと言いますか、そんなことがありました。

(参加者)

本日はありがとうございます。

私、曙町で保険会社に勤務しております。住まいは川崎市です。

まず、これ、すごく私、感動しまして、立川産食材使用店が、立川市外から、県外から、都外から通っていますので、以前、そこのどら焼きをママ友にプレゼントして、かなり喜

んでいただいたことがありますので、これ、ちょっと早速活用させていただこうかなと思ひまして、お話しさせていただきました。

1点ちょっとお伺いしたかったのは、先ほど、DXのお話があったかと思うんですけれども、弊社は今、DXもそうですがグリーントランスフォーメーションにちょっとこれから着手していこうと考えているところがございます。ただ、弊社としてもそうですし、中小企業の方にお伺いすると、何から取り組んでいいかわからないんだよねというお声をかなり頂戴しておりまして、実際にまず立川市様として、グリーントランスフォーメーションの今後の御予定とか、もしお聞かせいただけるのであればぜひお伺いできればなというところと、そういった中小企業様の声はかなり気になっているんですというお声を頂戴しているので、そこについての相談の窓口みたいなものを今後、設置される御予定とかがもしあるのであれば、わかる範囲で結構ですので教えていただければと思います。

(産業観光課長)

本日は、市内の事業者で働いていただいている皆さん、事業を展開していただいている皆さんがお集まりいただくということで、我々の産業観光課が足元でどんなことをやっているのという御紹介がてら、PayPayのキャンペーンと、こちらのパンフレットを配らせていただきました。実は「立川くらいが、一番いい」、その「一番いい」という魅力の一つに、事業所が集積していろいろなお店があつて、買い物に便利で映画館もいっぱいあつてとか、わりと華やかな面がある一方で、市内の中でちょっと離れた所、北部のほうの方が中心ですが、都内でも有数の農地がまだ広がっています。植木生産に関しては都内断トツの1位ですし、ブロッコリーも都内で一番です。特徴のあるものとしてウドがあるだとか、それを立川駅周辺にある多種多様な飲食店の独自の個性を出していく上で、地元産の食材を使ったメニューの開発だとか、ぜひそれを売りにしていただきたいとかつていう農商連携、それによって立川ならではの魅力により磨きをかけていきたいという思いを込めて、昨年度から取り組んでいます。

今年度は、パンフレットを作るだけではなくて、表書きの下に書いてある「もぐもぐばくばく応援キャンペーン」という形で、ぜひいろいろなお店に行つていただいて、応募いただくと、立川産野菜が当たるという、楽しみながら、またプレゼントが当たっちゃうかもというような仕掛け、それもまたSNSを使って楽しみながら、皆さんにも知っていただくきっかけを広げられればなという取り組みをしていますので、ぜひ職場の中でも、こんなのをもらってきたよということで、立川で働きながら立川のまちをぜひ楽しんでいただく、そういうきっかけにいただければありがたいなと。

これは、駅周辺ですと、タクロスの1階にある窓口サービスセンターなんかのラックには置いてあります。

(総合政策部長)

今年度からそういったグリーントランスフォーメーション、社会問題ということで、そういった解決に向けた専門組織を立ち上げたということでございます。本市としましても、これは各企業さんもそうでしょうけれど、SDGsの推進というのが一つの大きな取組みになります。ここで、いろいろ様々な外部機関の方と交えた中で協議も始めるところです。その中では、行政だけではこの環境問題、地球温暖化の問題、それは解決できる問題でもありません。それは市民や事業者の方を含めて取り組まないといけないことだろうと。そんな中では、一つは皆さんと連携を図っていくということ。それと、そういった意識をど

のように皆さんに持っていただくかということ。それと情報発信。この3点を、これも行政だけではなくて、協力いただけるところと連携をした中で発信していくということをとにかくやっていこうと思っております。

また、まだ公共施設には、例えば太陽光パネルなどの設置は、本市はそれほど多くありません。ただ、国の方針とすれば、新しい建物を建設したときには、ゼロエネルギー、とにかくそういった形で、もちろんエネルギーは使わなければいけないんですけどその分だけきちっと賄うだけのことをやっていくということを加速していかないと、自治体レベルでやっていかないと手遅れになってしまうんだらうなというふうに思っていますので、ぜひその部分でいろいろ包括連携の中でアドバイスをいただく機会もあると思います。ぜひ連携をして取り組めればと思っています。よろしくお願い致します。

3 閉会の挨拶

(市長)

本日は大変ありがとうございました。

つくづく感じました。時を見てやはり、こういうかたちの懇談の場は3カ月とか半年に一度実施するというだけでもいいのかなという思いを持ちながら、皆さんのお話を聞いておりました。ぜひ今後も議論して、方向性を決めていきたいなというふうに思っております。

本日は誠にありがとうございました。

— 了 —